

保育者養成課程における学修成果の可視化に向けた指標策定の基礎的研究 (前編)

大佐古 紀 雄・小 屋 美 香・大 屋 陽 祐
林 智 草・望 月 文 代・吉 野 真 弓

1. 本研究の背景・目的・方法

1) 本研究の背景・目的

2016年3月の省令改正により、いわゆる「3つのポリシー」(学位授与・教育課程編成・入学者受入の3つの方針)について、策定の義務化と、学位授与方針と教育課程編成方針との一貫性に意を用いることが法制化された。政策的な背景をみる限り、今回の改正ではさらに、学位授与を受けた学生の学修成果や、編成した教育課程の学修上の効果について、測定ないし検証が可能な(要するにエビデンスが提示できる)方針策定までを、大学に対して求めていることがうかがえる。従来、とりわけ教育分野については、エビデンスを示すことは半ばタブー視されてきたところがある。しかし、中室牧子が『「学力」の経済学』(ディスカバー21、2015)などで提起しているように、より良質な教育の提供のために的確な方策を立てるためにエビデンスに基づく議論を行うことにも、一定の意義が見出されつつある。このことは、米国の大学におけるア krediteーション(日本における認証評価にほぼ相当する)においても、エビデンス重視の傾向が強まっていることと軌を一にする。

保育者に対するニーズが、時代を反映してより複雑化・多様化している。養成校が輩出する人材がもつべき資質能力の定義づけと養成課程への反映を、保育者養成に対する社会的な要請への対応とどのようにマッチングさせるか、保育者養成に関わるあらゆるステークホルダーが納得できる最適解が従前にも増してつかみにくい時代になっている。本研究は、保育者に対する現代的なニーズ

を洗い出すために実施した保育現場に対するアンケート調査およびヒアリング調査を通じて、養成校における3つのポリシー、および教育の成果を可視化するための指標策定に有益な知見を得ることを目的とする。

なお、本研究は、本論の後編にあたる「保育者養成課程における学修成果の可視化に向けた指標策定の基礎的研究(後編)」とあわせて一連の成果となっている。本稿の執筆分担は、1(うち3)を除く)、2(うち2)を除く)、3、5を大佐古が、4を小屋が、1の3)および2の2)を大屋が担当したが、本研究は本稿共同執筆者6名のチームで実施したものであり、研究方法の設計と最終的な成果の総括は全員で行ったことを付記しておく。

2) 本研究の方法

まず調査の実施に先立って、保育者の「資質能力」について、「基礎的・汎用的資質能力」と「専門的資質能力」の2種類に大別して、本研究グループにおいて検討を行った。

前者は、いわゆる「ジェネリック・スキル」にほぼ対応する概念であり、また後者の「専門的資質能力」とは対置される概念として本研究では位置付けている。ジェネリック・スキルとは、川島(2010)によれば「『転移可能スキル Transferable Skills』とも呼ばれ、創造性、柔軟性、自立性、チームワーク力、コミュニケーション力、批判的思考力、時間管理、リーダーシップ、計画性、自己管理能力など、特定の文脈を越えて、さまざまな状況のもとでも適用できる高次のスキルの

ことである」。ここでいう「転移可能」とは、専門分野や職種の文脈に依存せず、分野や職種間で転移し活用することができるという意味である。¹

保育者の資質能力をいかにして養成校で培うか、そしてそれをどのように指標化して学習成果として測定するかを検討する手がかりを得るために、まず園長を対象として、養成校卒業時に有すべき資質能力に関する重要性の度合いの認識を問うためにアンケート調査を2016年12月から翌年1月にかけて実施した。つづいて、アンケート調査で得られた知見をさら具体的に掘り下げることがねらいとして、2017年8月から9月にかけて、4園でのヒアリング調査を行った。

なお、アンケート調査の検討の段階で、本研究が対象とする資質能力を、「基礎的・汎用的資質能力」に限定することとした。「専門的資質能力」は、保育者の特性上非常に多様な範囲に及ぶ。例えば、専門的知識の次元だけでも、教育・心理・社会福祉・保健などがあり、また専門的技能の次元でも、音楽・美術・体育・子どもに関わる文化などがある。これらをすべてカバーした調査を行うためには、どうしてもそれぞれの分野の専門性からの知見が必要となるが、それらをかき集めて質問項目に立てるためには、その作業と検討に膨大な人員と時間を要すると判断された。そのため、本研究ではこれを扱うことを断念したものである。ただし、アンケート調査においては、専門的資質能力について重要と考えられている要素についての自由回答型の設問を設けて、今後の展開に資する知見を得ようと試みた。

3) 分析方法

本調査におけるアンケート調査の分析には、SPSSver20.0を使用した。質問項目を分析するにあたり、各項目の評価比較及び因子分析を行った。因子分析は、因子抽出方法として主因子法、回転方法としてVarimax回転を行い、因子を抽出した。また、質問紙には自由記述を設けており、自由記

述の分析は、内容からのキーワード抽出を中心とした分析を行った。

2. 園長対象アンケート調査の概要

本研究では、以下のようなアンケート調査を実施した。

目的：新卒採用の保育者（養成校卒業時点とする）が有すべき基礎的・汎用的資質能力に対する重要性の度合いの認識を確認する。また、専門的資質能力について重要と考えられている要素について、その認識を確認する。

調査方法：質問紙調査法（郵送）

調査時期：2016年12月～2017年1月

調査対象：群馬県内の私立の幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園から、163件を無作為に抽出した。

回収数：90件（回収率55.21%）

有効回答数：87件

設問構成は、以下3問で構成した。

問1 次を示すような基礎的・汎用的な資質や能力は、新卒採用者（養成校を卒業した時点）にとってどの程度重要だと思いますか。（項目数45、選択肢は以下のごとく5件法とした）

- 5 きわめて重要である
- 4 かなり重要である
- 3 どちらともいえない
- 2 さほど重要ではない
- 1 まったく重要ではない

問2 問1でお答えいただいたような、基礎的・汎用的な資質や能力について、上記の項目以外に新卒採用者にとって重要な要素はありますか。あれば、記述欄に自由にお書き下さい。

問3 保育者にとっての専門的な資質や能力について、新卒採用者にとって重要な要素についてのお考えを、記述欄に自由にお書き下さい。

問1の項目については、林悠子他（2012）、林悠子他（2014）、林悠子他（2014）、藤尾淳子他（2010）などを参考にしつつも、本稿の共同執筆者全員で独自に項目を立案した。

3. 園長対象アンケート調査の量的調査部分の分析

園長対象アンケート調査における量的調査部分（問1）に関して、以下の通り分析を行った。表1は、各質問項目の平均値と因子分析である。また、表2は、各質問項目の回答別件数と割合を示したものである。

1) 個々の項目の分析

全体を通じて、総じて平均値が高い傾向にある。平均値が3.00を切った項目は1つもなく、3.00台でもより3.00に近い3.50未満が7項目しかなく、4.00以上となった項目が25にわたる。項目間での評価に差があるとはいえ、基礎的・汎用的資質能力が多角的・総合的に求められていると考えられる。その中でもとりわけ4.40以上が数値の上で突出した項目であり、「助言に対して真摯に耳を傾けられる」「自分の体調を管理することができる」「報告・連絡・相談をすることができる」「任されたことに対しては、最後までやり通すことができる」「誰に対しても自分から挨拶ができる」「5分前行動など、時間にゆとりを持って行動できる」「他者と協力して物事を進めることができる」「向上心を持っている」といった8項目である。これらは、保育者として必須の行動様式であると断定することが可能である。

2) 因子分析の結果

因子分析を行った結果、表1の通り8つの因子を抽出した。なお、因子分析は、主因子法によるVarimax回転を採用しており、1度目で因子寄与率の低い項目を除外し、因子分析を試みた。

第1因子は、「時間にゆとりを持った行動」「積極的に行動」「体調を管理」などの項目で構成されており「自己管理能力」と命名した。なお、項目には「報告・連絡・相談」や「苦手な相手ともコミュニケーションをとろうとする努力」などが含まれているため、自分の人間関係や職場での連

携業務をはかるコミュニケーションを自ら行動して管理する能力という意味も込められると考えられる。

第2因子は、「TPOにあわせた身だしなみ」「笑顔」「リーダーシップ」などの項目で構成されており、「社会性」と命名した。「時事問題への関心」など、社会に対する関心の高さも、意味合いとして含められる。

第3因子は、「自己の課題を見つける」「長所や短所を客観的に捉えている」などの項目で構成されており「自己解決能力」と命名した。

第4因子は、「部活動」「特技」「ボランティア」といった項目で構成されており「課外経験」と命名した。

第5因子は、「早寝早起き」「基本的な家事」などの項目から構成されており「生活習慣」と命名した。

第6因子は、「丁寧な言葉」「適切な敬語」「人の話を受け止める」などの項目から構成されており「対話する能力」と命名した。第1因子におけるコミュニケーション的要素とは重複するところもあるが、こちらはコミュニケーション・スキルに軸があると考えられる。

第7因子は、「養成校で学んだ理論」「責任の重み」「子どもたちと関わる経験」の項目で構成されており「専門性」と命名した。

第8因子は、「日常的に扱う漢字は間違えずに書くことができる」「高校レベルの基礎学力を身につけている」などの項目で構成されており「基礎学力」と命名した。

3) 各因子の重要度の違い

8つの因子で、因子を構成する項目で平均値を算出すると、「自己管理能力」「自己解決能力」「対話する能力」の3因子が4.00以上となり、残りの5因子が3.00以上4.00未満となる。

業務自体が多様な人々を相手にする対人業務であること、日常的に降りかかってくる課題への対

応が求められること、それらの業務を円滑にこなすための自己管理能力は、とりわけ欠かすことができない資質能力であると考えられる。一方で、「社会性」「課外経験」「生活習慣」「専門性」「基礎学力」の各因子については、3.00以上4.00未満であるが、どちらかといえば求められる方に位置付けられるため、優先順位の差こそあっても、やはり重要視される資質能力であることは否定できないだろう。

4. 園長対象アンケート調査の自由回答部分の分析

ここでは、園が新卒採用者に対して求める「基礎的・汎用的な資質や能力」及び「専門的な資質や能力」について、質問紙における自由記述部分の内容からのキーワード抽出を中心とした分析と考察を試みる。

1) 「基礎的・汎用的な資質や能力」について

この要素について回答があった自由記述は計47件であった。そのほとんどは『基本的な性格や態度、人間性』といった内容に分類することができ、最も多く共通して見られたキーワードは「素直」であり、9件の回答にこの言葉が含まれていた。例えば、「保育者自身も個々に感じ方や捉え方が違うので素直に自己を表現し、アドバイスを受け入れる」、「指導されたことに対して、素直に聞く態度や修正しようとする態度と努力が必要」、「失敗や間違いは誰にでもあるが、それを改めようとする素直な気持ちが重要」といった意見に見られるように、新任（おそらく新任に限らず）保育者には何よりも「素直さ」が求められていることがわかる。具体的に「素直とは、受容でき、反省でき、自分を変えられること」、「相手の言葉や気持ちを受け止めようとする力」、「人の話をきちんと聞けることが何より」という記載もあった。また、これに近い内容として、「柔軟さ」、「謙虚さ」、性格の「穏やかさ」、「奥ゆかしさ」、「しな

やかな心」といったキーワードも見られた。

他に『基本的な性格や態度、人間性』に分類できる内容としては、「感性の豊かさ」を重視する意見もあり、「感動できるということは、学んで身につくことではないだけに、大切な資質と考える」、「美しいと感じる心」、「生命に対する尊重や愛情の心が育っていること。人間の内面に含む目に見えないものや力に対する感性が育っていること」といった記載も見られた。

「明るくて元気にはつらつとした人間性が良い」、「明るいとは、積極的とか感情の豊かさとか前向きでいられること」、「元気とは、エネルギーがあり、活動的でストレス耐性もあること」という具体的な記述もあった。

「前向きさ」、「意欲」、「チャレンジする気持ち」や「自己肯定感」、「自分を大切にできる心」を持っていることなど、園が求める「基礎的・汎用的な資質や能力」は、その大部分が、学んで身につく要素ではなく、もともとの『性格や態度、人間性』といった内容に属する資質的要素であることが明らかとなった。能力的には、「咄嗟の時に行動できる（判断できる）」、つまり「行動力」や「判断力」を持ち備えていることという意見もあったが、全体の中では1件だけであった。

以上が基本的な態度と考えるならば、より『社会人としての態度や姿勢、能力』について言及している内容も多く見られた。例えば、「卒業して社会に出る、社会人としての気持ちに切り替え」、「プライベートの時間も保育者としての自覚をもって生活する」、「オンとオフの区別」、「社会人としての自覚をしっかりと身につけること」などが求められている。具体的には、「約束事を守る」、「規則を守る」、「（常識と規則の範囲内の）上司の指示に従う」、「報告・連絡・相談」、「自分の立場や役割をわきまえている」、「TPOをわきまえた言動」、「人に対しての礼儀ある態度」、「丁寧な身のこなし方」、「生活力」、「基本的生活習慣を身につけている」、「基本的な常識（挨拶など）を持つ

ている」などが分類できた。保育者だから、ということに限定されず、社会の新卒採用者に対して共通して求められる内容ではあるが、ここでは「自覚」や「気持ちの切り替え」など、意識的にその言動を変えていかなければならない要素が多く含まれていることがわかった。

「自分の体との付き合い」、「仕事と別のストレスを発散させる場を作るなど、自己の精神面の管理ができることも大切」というように、少数ではあるが「自己管理能力」についてふれる意見もあった。

また、「保育士になるにあたっての、しっかりとした目的と理由がある」、「実現させたい夢がある」などの「目的意識」を持っていることが大事であり、それが「根気」、「面倒で嫌な仕事であっても積極的にやる」、「自分で考え、行動できる」といった記述に見られる「積極性」や「主体性」というキーワードにつながっていくのではないかなと言える。

『基本的な性格や態度、人間性』、『社会人としての態度や姿勢、能力』の他に3つ目の大きな括りとしては、「話す（伝える）」、「聞く（質問する）」、「書く」などを含む、広い意味での『保育者としてのコミュニケーション力』という分類が見えてきた。例えば、「いかに園に溶け込み、馴染めるか」、「同僚とコミュニケーションがとれる」や「チームでの活動経験」は職場での人間関係に関わる内容である。「わからない事や疑問点など積極的に自ら聞いたり、関わったりする姿勢や態度を身につけてほしい」や「質問力」といった意見、また、「どう話せば伝えられるのか、感動を言葉にできること」、「年長の人に日常の保育の様子を伝える力」、「連絡帳や報告書の記入で、敬語やです・ます調できちんと書ける」、「丁寧語の前に正しい美しい日本語を使うこと」、「国語力の強化」が必要という意見も多かった。

「園と家庭をつなぐ親との連携」や「家庭との連絡を密にとれる」ことは、「コミュニケーション力」が基本にないと難しいと言えよう。そのためにも普段から「親やきょうだいと会話をする」ことが大切と考える記述も見られた。

「笑顔」と「子どもとの関わり」が混在するが、「笑顔で挨拶」、「緊張時にも笑顔で会話ができる」、「メリハリをつけた素敵な笑顔で子どもと接する」、「子どもとかかわることが好きで、楽しめること」、「保育や子どもの様子を興味深そうに（嬉しそうに）見る眼差し」などについても園長は気にしていることがわかった。

他にも、「子どもの心をくみ取ること」、「いかに目の前の子どもたちを観察し、心理を読むか」、「観察力」、「子どもの状態を見て、その態様に向き合うか」ということも、子どもたちと関わる上での『コミュニケーション力』であると考えることができる。

一方で、「（技術面や）子どもとの接し方などは就職してからいくらでも身につく」という考えもあるが、「子どもと接する機会が少ない学生が多く気にかかる」といった意見も含まれていた。また1件のみではあるが、「正しいSNSの扱い方」という記述もあり、その意味についても考えておかなければならない。

最後に、今回の質問紙での問い方が「問1でお答えいただいたような、基礎的・汎用的な資質や能力について、上記の項目以外に新卒採用者にとって重要な要素はありますか。あれば、以下の記述欄に自由にお書きください」となっていたため、それに対して「どれも社会人として基本」、「上記項目以外にはない」といった回答があったことについてもふれておく。

最後に、今回の質問紙での問い方が「問1でお答えいただいたような、基礎的・汎用的な資質や能力について、上記の項目以外に新卒採用者にとって重要な要素はありますか。あれば、以下の記述欄に自由にお書きください」となっていたため、それに対して「どれも社会人として基本」、「上記項目以外にはない」といった回答があったことについてもふれておく。

2) 「専門的な資質や能力」について

「保育者の専門的な資質や能力について、新卒採用者にとって重要な要素についての考え」は、質問紙の問3として、自由記述にて計51件の回答を得た。

その中でも多くあがっていたキーワードは「向

上心」、「努力」、「意欲」、「追求」、「学ぶ姿勢」などである。例えば、「仕事に対する向上心を持って常に学ぶ姿勢」、「向上心と専門職としての意識」、「学びを継続し、意識・力量ともに高めていくこと」、「学びは継続して必要」、「正解は一つではない」からこそ「学んでいこうとする真摯な態度」、「自身を磨くための努力」、「日々の努力の積み重ね」、「積極性」、「興味・関心・意欲」が必要といった意見である。

更に「自分はなぜ保育士になろうと思ったか、保育士になるにあたっての覚悟」や「自分の中にいかに保育のやりがいを見つけるかが必要」といった意見も含まれていた。

子どもと関わる上では、まずは「子どもが好き」、「子どもをかわいと思う」ことが大事と書かれた記述もあったが、「かわいとかの主観で園児を見るのではなく、保育士の視点で園児の成長を（発達過程と照らして）見極める視点」や「子どもの成長に喜びを感じる」、「子どもの姿に感動し、共感する心」、「子どもの可能性を信じている」、「子どもを引きつけられること」のように求められる視点が深くなっていることがわかる。

また、「気になる子どもの援助や発達について」、「各年齢の発達の理解」、「保健や虐待に関する知識」、「カウンセリングマインド」、「人としての正しい人権感覚」から「指導案の書き方」、「自己評価の書き方」、「書類作成程度の国語力」、「給食の食べ方。部屋の掃除。製作後の後始末」まで、細かい内容については多岐にわたっているが、回答はそれぞれ1件ずつであった。

また、「得意とする項目があると役立つ」といった内容の中で、特に多かったのは「ピアノ（その他の楽器でも）」の11件であった。他には、「手遊び」、「歌」、「読み聞かせ」、「素話」、「ゲーム」、「製作」、「絵」など、種類は多くあがっているが、何か一つ「特技」とするものがあること、保育の「ポケットをたくさん持っておくこと」や

「ペープサートやパネルシアターなど丁寧に作った作品が役に立つ」、「体を使って楽しく動くことを提供できる」、「リズム感（音楽的なことだけではなく、子どもを保育する際にも必要）」などの具体的な保育技術に関する記述も見られた。

技術よりももっと基本的なことを重視するという意見は、専門的資質能力について聞いているこの設問の自由記述の回答にも含まれ、「人柄」、「健康」、「笑顔」、「元気よく挨拶」、「コミュニケーションが得意」、「包容力」、「本来の生きる力」、「くじけない力」を持ち備えていることが何より大切と強調する意見も見られた。

「まわりに何が求められているか感じる心」、「相手の気持ちの理解」、「柔軟な思考」「適度な自己犠牲の精神」、「大勢と協同して取り組む体験」、「先輩や先生方のアドバイスをしっかりと受け止める」などは前述の基礎的・汎用的資質能力の部分でも多くあがっていた意見である。

「少しずつ専門的な能力などを身につけていけばよいので、まずは園の理念（教育等の）や設置者の考え等をしっかりと理解する」、「就職する園の方針や特色を把握する」、「就職した園やその地域で求められる子育て支援や保護者支援について学び」、「経験を積む積極性と失敗を恐れない前向きな姿勢」や「経験を通して真剣に学び成長していったほしい」といった意見が全体的には多かったとまとめることができる。

「今まで学んできたことや能力は自信をもって発揮してほしい」、しかし「保育のことは現場に出してからで間に合う」、「仕事をしていく中で備わっていく」、「職場で学んでください」というように、本節の最初でふれた「向上心」、「努力」、「意欲」、「追求」、「学ぶ姿勢」などを持って「経験」を通して身につけていけばよいこと、逆に考えれば、それらがないと本当に役立つ専門的な力は身につけていけないとも言える。

「しっかりと子どもたちを見つめ、その声に耳を傾け、常に寄り添いながら成長を支えられるこ

と。基本にこの姿勢がないと、どんな専門的知識を身につけていても役に立たない」という意見にあらわれているように、将来的に専門的な力が十分に育つだけのしっかりとした土台がいかに大切か、基礎的・汎用的資質能力についての重要性が改めて浮き彫りとなる結果となった。これらを踏まえ、保育者養成課程における、カリキュラムや授業だけでない部分の学生指導や実習指導・キャリア支援などの場面で、あらゆる方向から総合的に検討する余地と必要性があると考えられる。

5. アンケート調査および本稿の総括

保育現場に対するアンケート調査において、以下の点が明らかとなった。

まず、量的調査部分に関しては、個別の設問項目から、とりわけ「傾聴」「体調管理」「報告・連絡・相談」「やり抜く力」「あいさつ」「時間遵守」「協力性」「向上心」といった項目が重視されることがわかった。また、因子分析で導き出した因子からは、とりわけ「自己管理能力」「自己解決能力」「対話する能力」が重視されることがわかった。

基礎的・汎用的資質能力に関する自由回答部分からは、第1に「素直さ」「感性の豊かさ」「明るさ」「前向きさ」「意欲」「チャレンジ精神」「自己肯定感」「自分を大切にする心」といった、もとの『性格や態度、人間性』といった内容に属する資質があがった。第2には「約束や規則の遵守」「職務上の上司の指示に従う」「報告・連絡・相談」「自分の立場や役割への分別」「TPO」「礼儀」「身のこなし方」、「生活力」、「基本的生活習慣」、「基本的な常識」といった『社会人としての態度や姿勢、能力』があがった。そして第3には、職場で他の保育者や保護者などと関わる上での『保育者としてのコミュニケーション力』といった要素があがった。

専門的資質能力に対する自由回答部分については、子どもの成長を見守る視点に関する言及が多

かったが、一方で、基本的・汎用的資質能力のほうがより重視されている傾向や、基本的・汎用的資質能力と専門的資質能力とを地続きで捉えている視点が目立っていた。

上記のことからアンケート調査で得られた成果を俯瞰的に総括する。まず、基礎的・汎用的資質能力は総じて保育現場では強く重視されている傾向にある。しかし、必ずしも専門的資質能力と切り離しているわけではなく、専門的資質能力を生かすための前提として捉えられているものと考えられる。

基礎的・汎用的資質能力においては、個人に本来備わった「素質」に由来する「性格・態度・人間性」、社会との文脈で必要性が生ずる「社会人としての態度・姿勢・能力」「保育者としてのコミュニケーション力」の3点の重要性が浮き彫りになった。そのなかでも特に重視されている要素は、第1に「自己管理・自己解決できる力」であり、具体的には「生活習慣・体調管理」「やり抜く力」「時間遵守」「前向きな姿勢・向上心」「礼儀・常識」などがある。第2には「対話やコミュニケーションの力」であり、具体的には「素直さと傾聴の姿勢」「報告・連絡・相談」「あいさつ」「協力性」などがある。

ヒアリング調査の内容や調査分析、本研究全体の総括は、後編にゆずる。

【参考文献】（順不同）

*川嶋太津夫（2010）"ジェネリック・スキルとアセスメントに関する国際動向"、「学士課程教育のアウトカム評価とジェネリックスキルの育成に関する国際比較研究」、平成19-21年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書（研究代表者：濱名篤（関西国際大学））。

*清水貞文（2012）"ジェネリック・スキル論の展開とその政策的背景"、東北大学大学院教育学研究科研究年報62-1、pp. 275-87。

*林悠子・森本美佐・東村知子（2012）「保育者

養成校に求められる学生の資質について—保育現場へのアンケート調査より—」、奈良文化女子短期大学紀要43、pp. 127-134。

＊林悠子・森本美佐（2014）「保育者養成校に求められる学生の保育実践能力と資質について」、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要45、pp. 123-130。

＊林悠子・森本美佐・東村知子・高橋千香子（2015）「保育者としての資質と保育実践能力に対する学生の意識について」、奈良学園大学奈良文化女子短期大学部紀要46、pp. 121-128。

＊藤尾淳子・古川雅文・浅川潔司（2010）「幼稚園教員の資質能力に関する研究—幼稚園教諭、保護者、園長の力量観の比較から—」、学校教育学研究22、pp. 13-21。

※本稿は育英短期大学教育改革推進奨励制度に採択された「保育者養成課程における学修成果の可視化に向けた指標策定の基礎的研究（1）～保育現場への量的調査から～」（平成28年度後期）および「保育者養成課程における学修成果の可視化に向けた指標策定の基礎的研究（2）～保育現場への質的調査から～」（平成29年度前期）（いずれも研究代表者は大佐古紀雄）の成果の一部である。

¹ 「ジェネリック・スキル」に相当する概念については、政策的な背景もあって多様な立場から提起がされている。経済産業省が提起した「社会人基礎力」、文部科学省が提起した「学士力」、内閣府が提起した「人間力」などがある。本稿ではこれ以上の概念検討に立ち入ることができない。詳しくは例えば清水（2012）を参照のこと。

アンケート調査の因子分析

因子	因子名	項目番号	項目	平均値	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	共通性
1	自己管理能力	項目41	他者と協力して物事を進めることができる。	4.40	.735	.022	.219	.097	-.127	.098	.266	.127	.728	
		項目3	5分前行動など、時間にゆとりを持って行動できる。	4.45	.634	.222	-.097	-.005	.278	.070	-.082	.091	.562	
		項目40	報告・連絡・相談をすることができる。	4.51	.623	.026	.215	.188	.102	.265	.060	.009	.576	
		項目44	助言に対して真摯に耳を傾けられる。	4.56	.596	.224	.143	-.275	.055	.088	.234	.131	.624	
		項目33	何事にも意欲を持って取り組むことができる。	4.29	.546	.156	.241	.189	.004	.160	.134	.022	.572	
		項目32	苦手な相手ともコミュニケーションをとり努力することができる。	4.10	.513	.228	.131	.143	.161	.100	.185	-.026	.436	
		項目17	自ら積極的に行動することができる。	4.10	.504	.246	.184	.008	.005	.060	-.048	.116	.619	
		項目34	任されたことに対しては、最後までやり通すことができる。	4.49	.472	.277	.373	.028	-.027	-.002	.413	.094	.660	
		項目7	自分の体調を管理することができる。	4.55	.450	.200	.128	.041	.183	.169	.046	.244	.545	
		項目15	疑問に感じたことはそのままにせず相手に質問をすることができる。	4.10	.449	.113	.243	.045	.240	.147	.065	.037	.401	
項目19	忘れ物や紛失をしない。	4.16	.357	.342	.061	-.058	.228	.229	-.076	.341	.597			
2	社会性	項目42	常に笑顔を絶やさないでいられる。	4.13	.283	.737	.100	.098	.033	.120	.237	.015	.723	
		項目43	常に元気な声を出すことができる。	3.83	.271	.680	.081	-.037	-.107	.206	.233	.165	.692	
		項目45	リーダーシップがある。	3.38	.063	.652	.403	.165	.035	.053	.020	.274	.714	
		項目10	大勢の人前に立っても緊張しないでいられる。	3.33	.171	.527	.121	.142	.248	.304	.014	.196	.579	
		項目25	書段から読書をする習慣を身につけている。	3.49	-.004	.473	.230	.341	.232	.240	-.116	.028	.606	
		項目1	TPDに応じて適切な身だしなみができる（服装・髪型・化粧など）。	4.30	.354	.455	-.160	.060	.213	.300	.156	.097	.617	
項目26	新聞やニュースを見て、時事問題に関心を持っている。	3.59	.136	.428	.293	.375	.175	.242	.085	.123	.568			
3	自己解決能力	項目30	自己の課題を見つけることができる。	4.01	.057	.119	.770	.019	.063	.188	-.031	.088	.747	
		項目27	自分の長所や短所を客観的に捉えている。	3.85	.142	.225	.598	.191	.151	.128	.155	.057	.541	
		項目29	向上心を持っている。	4.40	.378	-.043	.589	.030	.004	.058	.064	.039	.545	
		項目31	他人の短所や欠点ではなく、良いところを見つけることができる。	4.21	.246	.124	.531	.170	.091	-.116	.277	-.088	.499	
4	課外経験	項目35	これまでに部活動に熱心に取り組んだ経験がある。	3.44	.148	.140	.043	.762	.257	.045	.150	.094	.727	
		項目28	特技を持っている。	3.48	-.056	-.014	.128	.752	-.088	.018	.066	.115	.628	
		項目36	これまでに学外活動（ボランティア、地域活動等）に取り組んだ経験がある。	3.34	.204	.258	.105	.714	.301	.059	.331	.055	.840	
5	生活習慣	項目2	早寝早起きの習慣を身につけている。	4.10	.406	-.066	.112	.014	.687	.046	.037	.024	.659	
		項目6	料理・洗濯・掃除など、基本的な家事を行うことができる。	3.58	-.156	.295	.142	.216	.654	.222	.168	.083	.752	
		項目5	一日三食をきちんと摂ることができる。	3.86	.123	.059	.073	.222	.634	.109	.194	.135	.559	
6	対話する能力	項目13	普段から丁寧な言葉で話すことができる。	4.06	.234	.160	.231	.005	.173	.661	.172	-.022	.640	
		項目12	適切な敬語を使うことができる。	4.03	.215	.209	-.029	.092	.014	.660	.141	.229	.614	
		項目11	人の話を聴いて受け止めることができる。	4.23	.353	.296	.020	-.019	.080	.430	.064	.122	.451	
		項目24	自分の考えを他者にもわかりやすいように文章にすることができる。	3.98	.072	.258	.316	.100	.148	.408	.097	.129	.485	
7	専門性	項目39	養成校で学んだ理論を理解している。	3.79	.063	.148	.117	.200	.088	.267	.717	.196	.730	
		項目37	学生時代に保育者の責任の重みについて理解しておく。	3.86	.246	.228	.243	.166	.208	.191	.662	.027	.720	
		項目38	子どもと関わる経験をより多く持つておく。	3.73	.340	-.013	.006	.277	.236	.012	.463	.053	.505	
8	基礎学力	項目21	日常的に使う漢字は間違えずに書くことができる。	3.95	.175	.215	.013	.223	.008	.153	.090	.816	.858	
		項目22	高校レベルの基礎学力を身につけている。	3.73	-.042	.161	.156	.213	.189	.289	.207	.438	.483	
		項目18	困っている人がいたら、助けることができる。	4.16	.189	.097	.374	-.083	.317	-.055	.063	.434	.518	
		項目20	丁寧にきれいな字を書くことができる。	3.71	.105	.329	-.129	.296	.203	.277	.292	.402	.613	
		項目16	指示を待たずに行動することができる。	3.95	.250	.129	.273	.079	.045	.095	.097	.028	.706	
		項目4	計画を立てて、行動することができる。	4.25	.270	.115	.165	.127	.267	.186	.093	.211	.767	
因子寄与率				4.710	3.585	2.967	2.696	2.399	2.293	2.227	1.858			
累積寄与率				11.487	20.231	27.468	34.044	39.896	45.489	50.921	55.454			
因子分析対象外項目		項目8	ストレスと上手につきあうことができる。	4.17										
		項目9	誰に対しても自分から挨拶ができる。	4.47										
		項目14	子どもに対して適切な言葉かけができる。	4.23										
		項目23	季節の挨拶や礼状など、はがきや手紙のマナーを身につけている。	3.44										

質問項目に対する選択割合

質問項目	選択番号	度数	パーセント
1 TP0に応じて適切な身だしなみができる（服装・髪型・化粧など）。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	3	3.4
	4. かなり重要である	51	58.6
	5. きわめて重要である	32	36.8
2 早寝早起きの習慣を身につけている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	3	3.4
	3. どちらともいえない	11	12.6
	4. かなり重要である	50	57.5
	5. きわめて重要である	23	26.4
3 5分前行動など、時間にゆとりを持って行動できる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	3	3.4
	4. かなり重要である	43	49.4
	5. きわめて重要である	41	47.1
4 計画を立てて、行動することができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	6	6.9
	4. かなり重要である	51	58.6
	5. きわめて重要である	29	33.3
5 一日三餐をきちんと摂ることができている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	4	4.6
	3. どちらともいえない	23	26.4
	4. かなり重要である	40	46.0
	5. きわめて重要である	20	23.0
6 料理・洗濯・掃除など、基本的な家事を行うことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	4	4.6
	3. どちらともいえない	38	43.7
	4. かなり重要である	38	43.7
	5. きわめて重要である	7	8.0
7 自分の体調を管理することができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	2	2.3
	4. かなり重要である	35	40.2
	5. きわめて重要である	50	57.5
8 ストレスと上手につきあうことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	11	12.6
	4. かなり重要である	55	63.2
	5. きわめて重要である	21	24.1
9 誰に対しても自分から挨拶ができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	6	6.9
	4. かなり重要である	34	39.1
	5. きわめて重要である	47	54.0
10 大勢の人前に立っても緊張しないでいられる。	1. まったく重要でない	1	1.1
	2. さほど重要でない	11	12.6
	3. どちらともいえない	41	47.1
	4. かなり重要である	29	33.3
	5. きわめて重要である	5	5.7
11 人の話を聴いて受け止めることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	7	8.0
	4. かなり重要である	55	63.2
	5. きわめて重要である	25	28.7
12 適切な敬語を使うことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	11	12.6
	4. かなり重要である	64	73.6
	5. きわめて重要である	12	13.8
13 普段から丁寧な言葉で話すことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	13	14.9
	4. かなり重要である	57	65.5
	5. きわめて重要である	17	19.5
14 子どもに対して適切な言葉かけができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	8	9.2
	4. かなり重要である	48	55.2
	5. きわめて重要である	30	34.5
15 疑問に感じたことはそのままにせず相手に質問をすることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	11	12.6
	4. かなり重要である	55	63.2

	5. きわめて重要である	21	24.1
16 指示を待たずに行動することができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	22	25.3
	4. かなり重要である	47	54.0
	5. きわめて重要である	18	20.7
17 自ら積極的に行動することができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	13	14.9
	4. かなり重要である	54	62.1
	5. きわめて重要である	20	23.0
18 困っている人がいたら、助けることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	10	11.5
	4. かなり重要である	53	60.9
	5. きわめて重要である	23	26.4
19 忘れ物や紛失をしない。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	12	13.8
	4. かなり重要である	48	55.2
	5. きわめて重要である	26	29.9
20 丁寧にきれいな字を書くことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	29	33.3
	4. かなり重要である	52	59.8
	5. きわめて重要である	5	5.7
21 日常的に使う漢字は間違えずに書くことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	18	20.7
	4. かなり重要である	54	62.1
	5. きわめて重要である	14	16.1
22 高校レベルの基礎学力を身につけている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	33	37.9
	4. かなり重要である	44	50.6
	5. きわめて重要である	9	10.3
23 季節の挨拶や礼状など、はがきや手紙のマナーを身につけている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	44	50.6
	4. かなり重要である	33	37.9
	5. きわめて重要である	5	5.7
24 自分の考えを他者にもわかりやすいように文章にすることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	19	21.8
	4. かなり重要である	53	60.9
	5. きわめて重要である	15	17.2
25 普段から読書をする習慣を身につけている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	47	54.0
	4. かなり重要である	34	39.1
	5. きわめて重要である	5	5.7
26 新聞やニュースを見て、時事問題に関心を持っている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	4	4.6
	3. どちらともいえない	36	41.4
	4. かなり重要である	41	47.1
	5. きわめて重要である	6	6.9
27 自分の長所や短所を客観的に捉えている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	21	24.1
	4. かなり重要である	54	62.1
	5. きわめて重要である	11	12.6
28 特技を持っている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	39	44.8
	4. かなり重要である	38	43.7
	5. きわめて重要である	5	5.7
29 向上心を持っている。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	2	2.3
	4. かなり重要である	50	57.5
	5. きわめて重要である	35	40.2
30 自己の課題を見つけることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	16	18.4
	4. かなり重要である	55	63.2
	5. きわめて重要である	16	18.4

31 他人の短所や欠点ではなく、良いところを見つけることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	5	5.7
	4. かなり重要である	58	66.7
	5. きわめて重要である	24	27.6
32 苦手な相手ともコミュニケーションをとろうと努力することができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	6	6.9
	4. かなり重要である	68	78.2
	5. きわめて重要である	13	14.9
33 何事にも意欲を持って取り組むことができる	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	4	4.6
	4. かなり重要である	53	60.9
	5. きわめて重要である	30	34.5
34 任されたことに対しては、最後までやり通すことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	1	1.1
	4. かなり重要である	43	49.4
	5. きわめて重要である	43	49.4
35 これまでに部活動に熱心に取り組んだ経験がある。	1. まったく重要でない	1	1.1
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	42	48.3
	4. かなり重要である	32	36.8
	5. きわめて重要である	7	8.0
36 これまでに学外活動（ボランティア、地域活動等）に取り組んだ経験がある。	1. まったく重要でない	1	1.1
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	49	56.3
	4. かなり重要である	26	29.9
	5. きわめて重要である	6	6.9
37 学生時代に保育者の責任の重みについて理解しておく。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	17	19.5
	4. かなり重要である	51	58.6
	5. きわめて重要である	14	16.1
38 子ども達と関わる経験をより多く持つておく。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	3	3.4
	3. どちらともいえない	27	31.0
	4. かなり重要である	45	51.7
	5. きわめて重要である	12	13.8
39 養成校で学んだ理論を理解している。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	19	21.8
	4. かなり重要である	53	60.9
	5. きわめて重要である	10	11.5
40 報告・連絡・相談をすることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	1	1.1
	4. かなり重要である	40	46.0
	5. きわめて重要である	46	52.9
41 他者と協力して物事を進めることができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	2	2.3
	4. かなり重要である	48	55.2
	5. きわめて重要である	37	42.5
42 常に笑顔を絶やさないでいられる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	1	1.1
	3. どちらともいえない	14	16.1
	4. かなり重要である	44	50.6
	5. きわめて重要である	28	32.2
43 常に元気な声を出すことができる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	5	5.7
	3. どちらともいえない	21	24.1
	4. かなり重要である	45	51.7
	5. きわめて重要である	16	18.4
44 助言に対して真摯に耳を傾けられる。	1. まったく重要でない	0	0.00
	2. さほど重要でない	0	0.00
	3. どちらともいえない	1	1.1
	4. かなり重要である	37	42.5
	5. きわめて重要である	49	56.3
45 リーダーシップがある。	1. まったく重要でない	1	1.1
	2. さほど重要でない	3	3.4
	3. どちらともいえない	51	58.6
	4. かなり重要である	28	32.2
	5. きわめて重要である	4	4.6